

平成30年度第1回京都市子どもを共に育む京都市民憲章推進協議会 会議録

- 1 日 時 平成30年5月25日（金） 午後6時00分～午後7時45分
- 2 場 所 井門明治安田生命ビル6階 子ども若者はぐくみ局会議室
- 3 出席委員 千賀会長，徳岡副会長
小倉委員，上島委員，小井委員，國重委員，小町委員，佐伯委員，竹川委員，辻野委員，
中島委員，橋本委員，高宮校長

4 次 第

（報告）

- (1) 平成29年度実践推進者表彰式について
- (2) 緊急の方策に係る動向について

（議題）

- (1) 憲章の普及啓発及び実践の推進にする平成30年度の取組（案）について
- (2) 平成30年度行動指針（案）について

5 会議録

京都青年会議所副理事長である足立五郎委員が新しく就任（当日は御欠席）。
人事異動により，はぐくみ創造推進室長に上田純子，はぐくみ創造推進室はぐくみ文化創造発信課長
に中芝貴彦が就任。

（1）平成29年度実践推進表彰式について

事務局

資料1に基づき説明。

委員

大賞，アクション賞を受賞された方ともに活発な活動をされており，感動した。

会長

受賞された方が誇りに思ってもらえる表彰式となったと感じた。

委員

月曜の午後という開催日時は出席しにくい方が多かったのではないかと。30年度に向けて日程についても検討する必要がある。

活動発表があったことで，前年度の受賞団体のその後の活動を知ることができたり，それまで知らなかった活動を知ることができた。被表彰者の活動をもっと多くの人にも知ってほしいと思う。

（2）緊急の方策について

事務局

資料2に基づき説明。

委員

児童虐待については、母親の精神的なケアが非常に大切。京都は専業主婦率が全国的にみても高く、それだけ母親の負担が大きいということ。地域の子育て世代に対する見守りを強化すべき。

スマホは、習い事などの連絡用として持たせるため所有率は高いことに対しては問題ではないと思うが、問題は利用時間。親・学校がルール作りをしなければいけない。また、低年齢の子どもにスマホを見せて子守をすることは多いと思うが、全ての動画が安全というわけではないので、動画を選択するという観点で注意が必要だと思う。

会長

地域において、民生児童連盟や社会福祉協議会などが地域において子育てサロンなどを開催している。はぐくみアクション賞の受賞団体など、活動されているところは多い。そういった地域に根差した活動の利用の促進を進めていくことを考えないといけない。

スマホについては、親の姿を子どもが見ていることが問題だと感じる。親が一致団結してルールを決めたり、使用方法を学ぶことで子どもも一緒に学んでいくことが肝要。

(6) 憲章の普及啓発及び実践の推進に関する平成29年度の取組(案)について

事務局

資料6・7・8に基づき説明

会長

29年度と比べて変わったところはどこか。

事務局

広報啓発作品の公募として、写真の募集に加え、憲章の実践例を新たに募集する。具体的な取り組みを募集することで自分の取り組みに気づき他の人にも知ってもらうことを目的としている。

また、啓発物品を他の団体と連携して作ることでより有効なものと啓発効果を高めていきたい。

会長

広報啓発はさらに周知をし、より多くの応募があるように工夫してほしい。

GOGO土曜塾は、全戸配布のPTA新聞よりも認知されていると感じており、広報として有効だと実感している。

行動指針のリーフレットは何をやっているかを知ってもらうために必要。

委員

憲章マークをランドセルカバーに使うなど、多くの人の目に触れるような大々的なイベントとして使うと周知効果が高いと思う。マタニティマークでも使用されているが、割れやすい素材なので改善してほしい。

会長

憲章ののぼりを立てている学校とそうでない学校があり、のぼりが立っていると嬉しい。継続

して掲示してもらえよう学校に対し周知して行ってほしい。

会長

これまで作成した物品の評判はどうだったか。

事務局

クリアファイルについては、PTAの会合などでも使用していただき、使い勝手がいいので継続して作成したい。

会長

啓発グッズの細かな部分については、よりはぐくみ憲章を広げるためのものとして事務局で工夫して行ってほしい。

(7) 平成29年度行動指針(案)について

事務局

資料9・10・11に基づき説明。

〈テーマについて〉

委員

案1が良い。引き続き「はぐくみ」という言葉をより浸透させていくため、Let'sはぐくみアクション!はテーマに入れていきたい。「子どもたちが笑顔になることで地域の大人が笑顔になる」ということはわかりやすい。

委員

案3が良い。1, 2案も良いが、具体的にピンとこない。案3は誰でも具体的にわかりやすい。

委員

案1が良い。リーフレットなどで広めていくには、短くコンパクトなものが良い。

Let'sは最初に来たほうが良い。また、案1は憲章の理念を一言で表せている。

委員

案1が良い。全てを包括している。

委員

案1が良い。表彰式を通してはぐくみ憲章が地域に広がっていくと感じた。このようなはぐくみ憲章の広がりを浸透させていくため、また、保育の場では、今は大人を笑顔にしないと子どもに良い影響がでないと感じており、子どもを幸せにするには大人の気持ちに余裕がないといけないということを大きなテーマとし、どのようなことをしたら笑顔になるのかを具体的な実践として考えていく契機になってほしい。

委員

案1か2が良い。「L e t'sはぐくみアクション！」という言葉は使いやすく覚えやすい。
案2は「みんなで」という言葉が良い。L e t's～を使い方によっては案3も良い。

委員

案1が良い。子どもと係ることで大人もそこからエネルギーをもらって幸せになれるというのがある。そのようなことを表現できているのは案1。

校長

案1が良い。表現が柔らかく、温かみを感じる。

委員

案1も良いが、「笑顔、笑顔」で漢字が続くので、難しい印象を与えている。2は「みんなで」が平仮名であるため受け止めやすい。

特に小さい子どもがいる時期には、大人が助けてほしい、甘えたいと思うことがある。親の環境をゆるやかにしないと子どもが笑顔になれないところがある。助ける方も笑顔で手を差し伸べやすくなるようなやわらかさが理想。

案1と案2を足して、「子どもも大人もみんなえがお」などはいかがか。

委員

案1は母親の視点から見ると「子ども→大人」というところに少し違和感がある（親→子どもではないか）。

「L e t'sはぐくみアクション！～みんなで子どもをはぐくもう～」として、子育て世代として、地域みんなで子どもを育てるようなものとしたい。

委員

案1はアクションといいながら後にくるのは「笑顔」という状態を示しているため、行動を促す言葉にすべき。「子どもを笑顔に 大人も笑顔に」としたい。

委員

各団体で地域の子どもとかかわっている方と保育現場、保護者としてとしての観点がある。活動を通じて子どもたちを係ってその活動で子どもたちが笑顔、その活動の糧として大人も笑顔になるということがある。

大人は子どもたちにどういう形で接してあげるべきかを考えた方が良い。

会長

それぞれの思いのこもった素晴らしい議論に感謝する。いろいろな立場の方が使ってもらうことを考えて決めていきたい。

委員

案2が良い。とっつきやすく優しい感じがある。「子どもがまん中 みんなで子どもを育もう Let'sはぐくみアクション！」などはいかがか。

委員

子どもから笑顔を貰うだけではなくて、大人が笑顔だと子どもも笑顔になることを表せるよう「子どもも大人も笑顔に」はどうか。

委員

「子どももえがお 大人も笑顔」と平仮名を混ぜては。

委員

憲章の制定が2月5日〈ニコニコの日〉であることもあるので、2月5日を目指し全てがつながるよう、毎月5日は笑顔の日とするなど意識付けの流れをつくれなにか。
そことも絡め、笑顔の表現を「ニコニコ」などにしてみては。

委員

案2は次年度以降の候補としてとっておきたい。

会長

案1をベースにサブタイトルの部分を集約し、決めていきたい。

～これまでの候補案 まとめ～

- 1 子どももえがお 大人も笑顔
- 2 子どもも大人もえがおに
- 3 子どもを笑顔に 大人も笑顔に
- 4 子どもの笑顔で大人もニコニコ
(2525)
- 5 子どもも大人もニコニコに

委員

サブタイトルとしては「ニコニコ」より笑顔の方が伝わりやすい。
「子どももえがお」「大人も笑顔」と掛け合いのように使っていけるのでは。

会長

案1を改良し、平成30年度のテーマは、
「Let'sはぐくみアクション！～子どももえがお 大人も笑顔～」
としたい。

〈緊急の方策と基本的な方策に基づく行動指針について〉

委員

「規則正しい生活を行います」「家族一緒に過ごす時間をつくります」という部分は働き方改革や共働き家庭において、これを務めるのは厳しくプレッシャーを感じてしまう人もいるのでは。昨年度の方が表現としては無理なく実践できる。

委員

「規則正しい生活」は大人に向けてのことか。

事務局

大人も子どもも家族一緒にという意図である。

会長

「家族みんなで規則正しい生活を心がけましょう、家族で一緒にいる時間を増やそう」という趣旨ということだ。表現はどうするべきか。

委員

一緒にいる時間＝愛情とは言い切れない場合もあるので、単に「時間を増やしましょう」ではないアプローチにしたい。

委員

行動指針は、既に実践している人に対してより多くのものを求めるものではなく、足りないところを補うものだと思う。

重複を避けるという観点で今年度の方向は良い。

委員

時間を「つくります」を「大切にします」であれば、受け手にとって無理がないのでは。

会長

「規則正しい生活を行い、家族一緒に過ごす時間を大切にします」という修正をお願いしたい。

委員

新潟の事件のように子どもが犯罪に巻き込まれる事件があったため、「地域を守る」という文言があっても良い。地域社会に対して連携できるようなものがあれば。

委員

子どもが巻き込まれる事件が目立っているため、緊急の方策に入れてもいいのではないか。

委員

小学校は地域の方に守ってもらっていると学校運営協議会でも言われている。人間関係が希薄な中、地域でも子どもを守っているという文言を入れてもいい。

委員

地域の見守りという視点は、憲章の基本の六つの理念に入っているものである。

委員

広く地域に知ってもらおうという観点で、行動指針に言葉を追加してもいいのでは。

会長

緊急の方策に「連れ去り対策」などを追加する方向で事務局に考えてもらいたい。詳細は会長・副会長に一任いただきたい。

事務局

行動指針は、数も含め条例の項目に基づいた構成となっているため、条例との整合性も踏まえ、見せ方も含め相談させていただきたい。

(以上)